

病態細胞機能学

科目到達目標:病態腫瘍学の観点から生命科学を俯瞰する。

科目責任者(所属):岡田 太(病態生化学)

回数	月日	時限	講義室	授業内容	担当者	講座・ 分野・診療科	到達目標	授業のキーワード
1	10/6(木)	4	511	non-coding RNAと腫瘍生物学	尾崎 充彦	病態生化学	細胞増殖、分化、運動能とnon-coding RNAの関わりを理解する。	non-coding RNA、microRNA
2	10/13(木)	4	511	癌の発生とmicroRNA	尾崎 充彦	病態生化学	発癌におけるmicroRNAの役割を理解する。	microRNA、発癌
3	10/20(木)	4	511	癌の進展とmicroRNA	尾崎 充彦	病態生化学	癌の浸潤・転移におけるmicroRNAの役割を理解する。	microRNA、浸潤、転移
4	10/27(木)	4	511	癌の診断とmicroRNA	尾崎 充彦	病態生化学	癌の診断におけるmicroRNA発現の意義を理解する。	microRNA、診断、エクソソーム、Liquid biopsy
5	11/10(木)	4	511	癌の治療とmicroRNA	尾崎 充彦	病態生化学	癌の治療におけるmicroRNAの役割と意義を理解する。	microRNA、治療、核酸医薬、エクソソーム
6	11/24(木)	5	511	癌の予防とmicroRNA	尾崎 充彦	病態生化学	癌の予防におけるmicroRNAを標的とした方法論を理解する。	microRNA、予防
7	11/24(木)	4	511	核酸医薬総論	尾崎 充彦	病態生化学	核酸医薬の現状と問題点を理解する。	核酸医薬、ドラッグデリバリーシステム
8	12/1(木)	4	511	癌の本態(1)	岡田 太	病態生化学	癌の無限増殖を理解する。	増殖
9	12/8(木)	4	511	癌の本態(2)	岡田 太	病態生化学	発癌条件を理解する。	遺伝的不安定性、突然変異
10	12/15(木)	4	511	癌の本態(3)	岡田 太	病態生化学	癌の Heterogeneity を理解する。	Heterogeneity
11	12/22(木)	4	511	癌の遺伝子発現調節機構	岡田 太	病態生化学	癌の遺伝子発現改変機構を理解する。	遺伝子変化とエピジェネティクス
12	1/5(木)	4	511	癌と生体	岡田 太	病態生化学	抗腫瘍免疫を理解する。	抗腫瘍免疫
13	1/12(木)	4	511	癌形質の可逆性	岡田 太	病態生化学	癌化形質は改変できることを理解する。	癌細胞形質の安定性と可逆性、癌細胞の異物化
14	1/19(木)	4	511	癌の転移(1)	岡田 太	病態生化学	癌の転移機構は複数あることを理解する。	転移様式とその要因
15	1/26(木)	4	511	癌の転移(2)	岡田 太	病態生化学	癌転移を修飾する生体内・生体外要因を理解する。	宿主要因、社会環境

教育グランドデザインとの関連:2、5

学位授与方針との関連:1

参考書:指定しない。なるべくなっとく病理学 病態形成の基本的なしくみ(小林正伸, 南山堂2015年), やさしい腫瘍学(小林正伸, 南江堂2014年), 病態病理学(菊地浩吉, 南山堂2004年)や人体病理学(石倉 浩, 南江堂2002年)などを参照すること。ただし, The Biology of Cancerを参照する際には原著を読むことを強く薦める

評価:試験100%